

雜 報

學術集談會

12月21日(木)午後1時ヨリ講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ。演題ハ次ノ様デアツタ。

1. 單個「フィルム」培地培養法ニ依ル諸研究
 - (1) S型集落ヨリR型ヘノ變異ニ關スル從來ノ誤謬(特ニ大原菌變異ニ關スル研究)
 - (2) 所謂「ペッテンコーフェリア」ノ意義ニ就テ

中村 敬三	上
蓑 茂	眞也
2. 「コルヒチン」ト病原細菌

中村 敬三	上
蓑 茂	眞也
大塚	眞也
3. 緬羊腰麻痺病ニ關スル研究

其一 臨牀血液學の所見ニ就テ

山極 三郎
4. 葡萄狀球菌抗毒性免疫ニ關スル研究(續報)

細谷 省吾	阿安
林 阿安	正司
松兼 正司	睦夫
柳澤 睦夫	
5. ジャワ及ビドイツノ住民ノ血清ノ日本流行性腦炎病毒ニ對スル殺病毒性ニツイテ

三田村 篤志郎	正見
北岡 正見	漸
渡 邊 漸	龍
岩崎 龍	智
天 神 智	巖
石川 巖	慶一
徐 慶一	久
吉 田 久	大介
吉松 大介	太郎
藤岡小 太郎	盈行
清水 盈行	恒彦
渡 邊 恒彦	
6. 昭和14年夏季北海道ニ於テ發生シター腦炎患者カラ分離サレタ病毒株竝ビニ昭和13年以後ニ於ケル北海道ノ日本腦炎ニ對スル免疫度ノ上昇ニツイテ

林 敏雄	武雄
富澤 武雄	幸太郎
丸山 幸太郎	篤志郎
三田村 篤志郎	正見
北岡 正見	漸
渡 邊 漸	龍
天 神 龍	智
林 敏雄	巖
富澤 武雄	慶一
丸山 幸太郎	久
三田村 篤志郎	大介
北岡 正見	太郎
渡 邊 漸	盈行
天 神 龍	恒彦
林 敏雄	
富澤 武雄	
丸山 幸太郎	

7. 日本流行性腦炎病毒「ワクチン」ニ關スル研究

三田村 篤志郎	正見
北岡 正見	漸
渡 邊 漸	龍
岩崎 龍	智
天 神 智	巖
石川 巖	慶一
徐 慶一	久
吉 田 久	大介
吉松 大介	太郎
藤岡小 太郎	盈行
清水 盈行	恒彦
渡 邊 恒彦	
8. 實驗的ニ日本流行性腦炎病毒ヲ傳播シ得ル新シキ蚊ノ一種 (armigeres obturbans Walker) ニツイテ

三田村 篤志郎	正見
北岡 正見	漸
渡 邊 漸	龍
石川 巖	慶一
徐 慶一	
9. 日本腦炎、セント・ルイス腦炎及ビ米國馬腦脊髓炎(東部及ビ西部型) 病毒ノ蚊ニヨル傳播ノ比較研究

三田村 篤志郎	正見
北岡 正見	漸
渡 邊 漸	龍
岩崎 龍	智
天 神 智	巖
石川 巖	慶一
徐 慶一	久
吉 田 久	大介
吉松 大介	太郎
藤岡小 太郎	盈行
清水 盈行	恒彦
渡 邊 恒彦	
10. 岡山市ニ於ケル昭和14年ノ蚊ノ消長トソノ日本流行性腦炎病毒保有ニツイテ

三田村 篤志郎	正見
北岡 正見	漸
渡 邊 漸	龍
岩崎 龍	智
天 神 智	巖
石川 巖	慶一
徐 慶一	久
吉 田 久	大介
吉松 大介	太郎
藤岡小 太郎	盈行
清水 盈行	恒彦
渡 邊 恒彦	
11. 日本流行性腦炎ノ流行ノ發現ノ要約ニ關スル流行病學的考

察、氣温(病毒ノ毒性)及ヒ前

驅シタ流行(免疫)ト流行發現

トノ關係ニツイテ

{	三田村篤志郎
	北岡正見
	渡邊漸

12. 無症狀感染(綜説)

田宮 猛雄

學友會へ寄附

一金 6圓 2錢也

桑島 謙夫君

一金 369圓 75錢也

一金 3圓 85錢也

一金 7圓 84錢也

一金 40圓 34錢也

一金 14圓 91錢也

一金 77圓 63錢也

一金 5圓 0錢也

山川 義信君

中村 孝一君

永井 吉郎君

關屋 重徳君

神子 謙君

安藤 誠治君

永井 吉郎君

実験医学雑誌 24卷 (2号) 293-299

雜 報

青山胤通先生胸像遷座式

大正8年11月以來傳研舊本館ノ前庭ニ安置サレテ、絶エズ所員發奮ノ源トナツテ
キタ青山先生ノ胸像ヲ、本建築落成後諸設備モ漸時完成シタ今日、本館二階正面ニ遷
座スル義ノ起ツタノハ當然ノコトト思ハレル。

先生ガ移管後ノ初代所長ニ就任サレタ日ヲトシ、1月15日午後2時ヨリ、青山徹藏
博士御夫妻ヲ御招キシ、歴代所長ヲハジメ多數ノ關係者ヲ招待シテ、盛大ナ遷座式ガ
舉行サレタ。

先ヅ胸像前ノ式場ニ於テ宮川所長ノ遷座式辭ノ朗讀ガアリ、式終ツテ一同食堂ニ集
リ茶果接待裡ニ宮川所長本胸像ノ由來ヲ述ベラレ、次デ林・長與兩先生ノ追懷談アリ、
最後ニ青山徹藏博士ノ謝辭ガアツテ盛大ナ本催ヲ了ツタ。

尙像ノ臺座ニハ明治27年此像ガ贈ラレタ時ノ近衛篤麻呂公ノ銘及ビ今回ノ遷座ニ
關スル宮川所長ノ銘文ガアル。

醫學博士青山胤通君銅像記

黒死病之爲害豈忍道哉始發以來蓋千有餘年方其熾也漫延於東西二洲每戶傳染斃死
相望邨落空虛都市荒漠可謂慘毒極矣頃者方其發香港也醫學博士青山胤通君奉 朝
旨欲就實況以推究之冒炎暑衝瘴氣出入於萬死之域解剖死屍者二十有餘能明其病理
以爲刀圭者流之圭臬而博士亦終感其毒閱月僅愈博士之功不亦偉乎吾輩會員等茲迎
其歸祝其康寧欲留大名於後世以激勵學者乃命工彫君銅像贈之若夫發明事蹟詳載報
告今不具錄謹作記

明治二十七年十一月十一日

歡迎會長從三位公爵 近 衛 篤 麻 呂 撰

大正六年十二月二十三日醫學博士男爵青山胤通先生薨ズ 本所員門弟等永ク高風
ヲ瞻仰センコトヲ希ヒ曩ニ明治二十七年十一月「ベスト」研究ノ功績ヲ頌シ全國醫
家ノ贈呈セル銅像ヲ青山家ニ請ヒ之ヲ傳染病研究所舊本館前ニ安置シ大正八年十
一月二十二日其除幕式ヲ舉行セリ 同十二年九月大震災後姑ク其座ヲ遷セシモ復
興既ニ成リ宛カモ二十五年前先生本所所長就任ノ本月本日ヲトシ此位置ヲ選ビテ
再建ス 先生ノ所長在職ハ大正五年二月マデ年餘ニ過ギザリシモ崇高ナル學徳ト
不撓ノ意氣トハ實ニ本所隆興ノ基ヲ成セリ 遺影ニ接シ景仰追慕ノ微忱ヲ表ス

昭和十五年一月十五日

傳染病研究所長 官 川 米 次

宮川所長ノ式辭

大正6年12月23日醫學博士男爵青山胤通先生薨ズ。本所所員門弟等永ク先生ノ高風ヲ瞻仰センコトヲ希ヒ、曩ニ明治27年11月「ベスト」研究ノ功績ヲ頌セントメ全國醫家ノ贈呈セル銅像ヲ青山家ニ請ヒ、諸ヲ傳染病研究所舊本館前ニ安置シ、大正8年11月22日其除幕式ヲ舉行セリ。然ルニ同12年9月ノ大震災ニ依リ本所ハ大破ヲ蒙リ、止ムナク姑ク其座ヲ遷セシモ、頃者幸ニシテ本所ノ復興略々成リシヲ何テ宛カモ25年前先生ガ本所所長就任ノ本月本日ヲトシ、此處ヲ選ビテ奉置セリ。

先生ノ所長在職ハ僅カニ年餘ニ過ギザリシガ、ソノ崇高ナル學徳ト不撓ノ意氣トハ實ニ本所隆興ノ基ヲ成セリ。吾等日常ソノ遺影ニ接シ、景仰追慕ノ微忱ヲ表セントスル所以ノモノ誠ニ茲ニ存ス。

一言蕪辭ヲ述ベ遷座式典ノ辭トナス。

昭和15年1月15日

傳染病研究所長 宮川 米次

宮川所長ノ青山先生胸像由來ノ話

今日吾ガ傳染病研究所ノ本館樓上ニ遷座致シマシタ青山先生ノ胸像ノ由來ヲ簡單ニ皆様ニ御披露申シアゲテ置キタイト存ジマス。明治27年(1894年)香港ニ「ベスト」ノ一大流行ガアリマシタ。其ノ翌々年ニハボンペーニ、1910—11年ニハ滿洲ニ見ラレマシタコトハ御承知ノ通りデアリマス。其以前ニモ亞細亞、歐洲ニモ屢々大流行ガアリ、非常ナル慘害ヲ蒙リマシテ、黒死病トシテ一大脅怖ノ種デアツタノデアリマシタ。香港ノ大流行當時ハ日清ノ間ニ、風雲ガ極メテ急デアリマシテ、終ニハ干戈ヲ何テ相交ハルニ至ツタノデアリマシタガ、吾政府ハ此人類ノ大敵「ベスト」ノ原因探究ノタメ、其ノ豫防撲滅研究ノタメニ臨牀家デアリ、病理學者デアアル青山胤通先生、細菌學者デアアル北里榮三郎先生ヲ香港ニ派遣セラレタノデアリマシタ。先生等ハ助手トシテ宮本叔學士、石神亨大軍醫、岡田義行内務省囑託、當時學生デアラレタ木下正中氏等ヲ伴フテ、現地ニ赴カレ劃期的ノ業績ヲ舉ゲラレタノデアリマシタ。即チ北里先生ハ「ベスト」菌ヲ發見シ、偶然佛人 Yersin ノ所見ト一致シ、青山先生ハ精細ナル臨牀檢索、20有餘ノ屍體解剖等ヲナサレテ種々論議ノ種トナツテ居タ點ヲ明快ニ解決セラレ、「ベスト」病ナルモノノ本體ヲ全ク明ラカニセラレタノデアリマシタ。此ノ兩先生ノ大業績ハ翌々年ボンペーニ始ツテ、中央亞細亞ニ猖獗ヲ極メタ大流行ノ際ニ、西歐ノ諸國カラ研究者ガ派遣セラレ、全的ニ承認セラレタノデアリマシタ。此ノ偉大ナル學動ハ世界醫學史上ニ不滅ノ金字塔トナツテ居ルコトハ申ス迄モアリマセヌ。然カモ青山先生ハ此ノ研究ノ際、不幸ニシテ病菌ニ侵カサレ、一時ハ急ヲ告ゲタ程ノ状態ニ迄モナラレタトイフ事デアツテ、平素此種ノ業務ニ從事スル私等傳研人ニトリマシテハ一層感銘ノ深イモノガアルノデアリマス。

兩先生ノ一行ガ、此ノ劃期的ナル業績ヲ舉ゲ、宛カモ凱旋將軍ノ如クニ歸國セラレタ際ニ、全國ノ醫師諸君カラ其ノ學動ヲ頌シ記念スルタメニ贈ラレタノガ今回茲ニ安

置致シマシタ胸像デアリマス。私等常ニ傳染病ノ研究ニ從事シテ居リマスモノニトリマシテハ此ノ様ナ立派ナ歴史ノアルモノヲ吾等ノ許ニ置キマスコトハ單ニ先生ノ溫容ニ接スルトイフ以外ニ、言ヒ知レヌ教訓ト鞭撻ト勇氣トヲ與ヘラレルノデアリマス。承ル所ニ依ルト此ノ胸像ハ先生ノ36歳ノ時ノデアリマシテ、藤田文藏氏作、宮尾榮助氏鑄トナツテ居リマス。如何ニモ潑刺トシテ勇氣凜々タルモノガアリ、「ベスト」ナル一大惡魔ト取り組マフトイフ様ナ氣分ガ溢レテ居リマス。吾ガ傳研ハ先年青山家ニ此ノ由緒アル胸像ノ寄贈ヲ御願ヒシテ、大正8年11月22日ニ、舊本館前ノ松木立ノ内ニ安置シ、住キ歸ヘルサニ私等ハ其ノ遺影ニ接シタノデアリマシタガ、彼ノ大震災ニ依リマシテ、本所ガ大破シタノデ、止ムナク一時座ヲ遷シタノデアリマシタガ、今回、吾ガ本館モ出來上リマシタノデ、其ノ中央ニ研究者ノ權化トシテ奉置シ、日夜吾等ヲ鞭撻シテ頂キマシテ、吾ガ傳研ノ使命ノ達成ニ邁進シタイト念願シテ居ルノデアリマス。今日ニ青山先生ガ傳研ノ所長ニ御就任ニナラレマシタ日デアリマシテ、丁度ソレカラ25年ヲ經ツテ居ルノデアリマス。

後來吾ガ青山先生ハ本館ノ中央ニ鎮座マシマシテ、其ノ英靈ハトコシヘニ吾等ヲ指導シテ下サルコトト信ジマス。此ノ意味ニ於テ先生ハ久遠ノ本所ノ所長デアリ指揮官デアリ、マタ吾々ニ無言ノ薰陶ヲ授ケラレ、進ムニツケ退クニツケ常ニ一ツノ指示ヲ與ヘテ居ラレルヤウニ思ハルルノデアリマス。又吾々モ日常善カレ惡カレ先生ニ直接御報告モ出來ルノデアリマシテ、コンナ結構ナコトハナイト存ジマス。此ノ意味ニ置キマシテハ前所長デアラレマシタ林、長與兩先生ニモ全く御同感ノ事ダラウト信ズルモノデアリマス。

青山、北里兩先生御一行ガ香港ヨリ御歸國ニナリマシタ當時ノ盛大ナル歡迎會ノ模様ハ東京醫事新誌868號(明治27年11月17日發行)ニ詳シク載セラレテ居リマス。今其ノ要點ニ觸レテ置キマスコトハ、胸像ノ由來ヲ一層明ラカニスル様ニ存ジマス。歡迎會ノ委員長ハ近衛篤磨公デアリマシテ朝野ノ貴紳20餘名ガ委員トナラレ、東京帝國大學ノ圖書館デ開催セラレタノデアリマス。當日ハ畏クモ小松宮彰仁親王殿下ノ御台臨ヲ仰ギ奉リ、朝野ノ知名ノ士無慮1000名ガ集リ、殿下ヨリハ優渥ナル令旨ヲ賜ハリ、近衛委員長ノ熱烈ナル歡迎頌德ノ辭ト共ニ、銅像ノ贈呈式ガ行ハレタ由ガ記サレテ居リマス。兩博士ノ名譽ハ譬フルニ物モアリマセヌト存ジマス、之レニ對シマシテ、青山、北里先生ガ鄭重ナル極メテ謙遜ナル謝辭ヲ述ベテ居ラレマスコトハユカシキ限リデアリマス。茲ニハ青山先生謝辭ヲ記スコトトシマシタ。

謝 辭

「ベスト」病ノ香港ニ流行スルヤ我政府ハ直ニ余輩ヲ遣ハシテ之レガ研究ニ從事セシメタリ。余ハ政府ガ斯道ノ爲メニ能ク此舉アリシヲ感ゼズンバアラス。深く之ヲ感ゼシガ故ニ余ハ專心之レガ研究ニ從事シタリ、而シテ中道病魔ノ襲フ處トナリ當初ノ所期ヲ果ス能ハザリシハ余ノ今ナホ遺憾ニ堪ヘザル處ナリ。事如此ニシテ而シテ却テ歡呼聲裡ニ迎ヘラレルハ衷心深愧シ、且ツ迷フ處ナリ。翻テ其之ヲ

致セシ所以ノ者ヲ熟考シテ左ノ數項ヲ得タリ。

(第一)身ヲ危險ノ地ニ投ジタルコト。(第二)事英領香港ニ起リテ而シテ余輩ガ先鞭ヲ外國人ニ付ケシコト。(第三)研究ノ結果空シカラザリシコト是ナリ。實ニ此三者ハ多少世ノ同情ヲ惹クニ價スルモノナラム。然レドモ顧リミテ我醫科大學ノ同僚業蹟ヲ見ルニ余輩ノ今回ノ事業ニ超ユルコト數等ニシテ而モ埋沒世ニ知ラレザルモノ尠ナシトナサズ。彼等ハ固ト其業蹟ヲ提テ學界以外ノ稱贊ヲ博セムト欲ルモノニ非ズト雖。余ガ此間ニ立テ今此歡迎ヲ辱フスルハ余ガ恚ニ慚愧ニ堪ヘザスル處ナリ。聊蕪辭ヲ述ベテ答辭ニ代フ。

林春雄先生ノ挨拶要旨

只今宮川所長カラ本日遷座サレタ青山先生ノ像ニ就テ色々感想ヲ述ベラレタガ、實ハ私ハアノ像ニツイテハ最モ思ヒ出ガ深い。恐ラク私ハ此處ニ居ラレル方々ノ中デ先生ノ當時ニツイテノ唯一ノ目撃者ダラウト思フ。

先生ガ香港ニ行カレタノハ明治27年ノ6月夏休前ダツタト思フ。私ハマダ學生ダツタ。他ノ學生ト共ニ先生ヲ新橋ニ御送りシタ。先生ガ病氣ニナラレタ時ニハ號外モ出タガ、ソノコトガ新聞社ニ張り出サレタ。當時ハ何事カアルト新聞社ハ張り紙ヲ出シテ急報シタモノダツタ。時々刻々先生ノ御容態ガ張り出サレルノヲ私モ近所ヘ見ニ行ツタ。一時ハ重態デアツタガ幸ニシテ段々ヨクナリ、ソノ中ニ治ツテ新橋ヘ歸ツテ來ラレタ。ソノ時ハ先生ヲ知ルト知ラザルトヲ問ハズ迎ヒニ行キ、新橋驛ハ全く立錫ノ餘地モナイマデーバイノ多人數ダツタ。全く凱旋將軍ノ様ダツタ。

胸像ノコトハ歸ラレル前カラ相談ガ出來テ居タラシイ。贈呈式ハ大學ノモトノ圖書館デ行ハレタ。濱尾總長ハ後進ヲ激勵スルタメ我々學生ニモ文字通りノ末席ニ列席スルコトヲ許サレタ。

ソノ後先生ニ聞クト像ハ重ク、又自分ノ家ニ飾ルワケニモユカズ、モテアマシテ倉ノ中ニ保存シテアルト云フコトダツタ。先生ガ亡クナラレテ後傳研ノ方ニホシカツタシ、ソノワケデ像ハ無駄ニナツテキルト思ハレタノデ青山徹藏博士ニ御願ヒシタ所快諾サレタ。ソノ頃我々ハ像ハ外ニ建テルモノト思ツテキタ。何處ガイ、カト考ヘテ舊本館ノ前ノ所ニ建テタワケダ。

先生若シ生アラバ今日斯ク盛ナ研究所ノ状態ヲ見ラレテ會心ノ笑ヲ浮ベテキラレルコトト思フ。

諸君モ益々先生ノ意ヲ繼ガレ、研究所ノタメニ一層努力サレタイト思フ。

長與又郎先生ノ挨拶要旨

今日ノ意味アル記念スベキ日ニ私モ追懷ヲ述ベル機會ヲ得タコトヲ喜バシク思フ。

只今林サンカラ興味アル當時ノ話ガアリマシタガ、私ハ青山・北里兩先生ガ「ベスト」ノ學術研究ニ香港ニ行カレマシタ時ハ中學生デアツタ。親父カラノ話ニヨルト大變ナモノダツタトイフコトデアアル。當時先生等ノ醫學ノ Expedition ハ日本ノ學術ニ就テ

特筆大書スベキコトデアツタ。

青山家カラ胸像ノ寄贈ヲ受ケ、ソノ除幕式ガ舉行サレタノハ大正8年11月22日ダツタガ、ソノ當時ノコトガ私ノ日記ニ書イテアル。何故ニ移管ガ行ハレ、何故ニ像ガ贈ラレタカ等。

移管ガ發表サレタノハ大正3年10月12日頃デ、實行サレタノハ11月5、6日デ、ソノ場所ハモトノ本館トイツテキタ所ダツタ。

北里サンガヤメラレテ暫ク福原サンガ所長心得ニナラレ、翌年1月15日ニ先生ガ初代所長ニ就任サレタ。間モナク林サンガ所長ニナラレテ3年バカリ勤メラレタ。此ノ間ニ色々ノ問題ガ整理解決サレ、文部省ニ移サレタ研究所ハ大學ニ附置サレルコト、ナツタ。尙定員モ増加サレ、5人ノ技師ガ10人ニ増サレタノモ林サンノ時ダツタ。林サンガ大正8年4月辭意ヲ決サレ、6月ニ私が後ヲ繼イダ。此ノ像ヲ傳研ヘ頂イタノハ其年ノ11月ダツタ。頂イタ形式ハ、青山先生像建設委員會トイフモノガ出來、ソレガ青山家カラ頂イテ傳研ニ寄贈スルトイフ形ダツタ。ソノ委員長ハ林サンダツタ。ソノ除幕式ノ時先ヅ林委員長ノ經過報告ト挨拶ニ次イデ山川總長ガ次ノ様ナ意味ノ挨拶ヲサレタ。

青山氏ハ移管ノ張本人ニ非ザルコトハ勿論、世間傳フルガ如ク大隈首相ヲ説イテ此舉ニ出タノデハナイ。移管問題ハ實ニソノ前ノ政友會內閣ノ發案デアツテ、文相奥田義人氏ハ案者ノ1人ナリ。大正3年5、6月ノ頃余ハ奥田氏ノ招キニ應ジテ文部省ニ氏ヲ訪問セル時、同氏ハ「行政整理ノ一部ノ事業トシテ各所ノ移管併合等ヲ行ハントス。水産講習所ノ移管ハ既ニ決定セリ。傳研ハ之ヲ內務省ニ置クヨリモ文部省ニ移ス方ガ適當ナラント考ヘル。貴意如何」ト言ハル。自分ハ「之ハ私見トシテハ一應ヨイコト、考ヘルガ、製造部ノコトハ大學モ引キ受ケ得ルヤ否ヤ熟考ヲ要ス」ト答ヘ、未解決ノマ、缺レ、青山學長ノ意見ヲ質シタルニ、青山氏ハ言下ニ「ソレハ結構ナリ、其場合ニハ引ク受クベシ」ト云ハレタリ。自分ハ此事ヲ文相ニ回答セリ。

然ルニ間モナク政友會內閣ハ倒レ、大隈內閣成立シ、此案ハ一木文相ニヨツテ成案トシテ提出セラレ、閣議ノ協賛ヲ得テ、同10月發表セラレタリ。然ルニ北里氏ハ其門下一同ト連袂辭職セラルルコトトナリ、傳研ハ當然醫科大學ニ於テ引キ受ケネバナラヌコト、ナツタ。學術上ノコトハ何等問題デハナイガ製造部ノ事業ニ就テハ懸念ニ堪エナカツタ。加フルニ新聞ハ猛烈ナ非難攻撃ヲ大學ニ加ヘ、血清製造ハ到底出來ザルベシトノ流説アリ、他方某某氏ヲ通ジテ種々ト妥協案ヲ計畫スル者モアリ、此間ニ於ケル自分ト一木文相ノ苦心ハ一方ナラヌモノデアツタ。青山氏モ勿論同様ノ苦心ヲセラレタノニ相違ナイガ、一言モ「困ツタ」トハ言ハナカツタ。一言モ弱音ヲ吐カナカツタガ、ソレハ青山氏ノ氣性トシテ當然デアツタラウガ、實ハ大ニ困ツテ居ラレタノデアル。一木氏ノ如キハ余ニ向ツテ「若シ血清ノ製造ガ出來ヌトイフニ於テハ、一人ノ一木、山川、青山ノ問題デハナイ、帝國大學ノ名譽ヲ傷ケルコトニナル」トイフテ心痛セラレタノデアル。青山氏モ或

ル妥協案ニ就テハ稍々心動キタル如クデアツタ。某日余ハ青山、林、長與ノ三氏ヲ總長室ニ招キ協議スル所アリシガ、其時林・長與ノ兩氏ハ今ニ至ツテ妥協トハ以テノ外ナリ、事茲ニ至ツテハ何等躊躇スベキニ非ズト、非常ナ意氣込ミデアツタ。茲ニ於テ余モ終ニ意ヲ決シタノデアツタ。

其後青山氏ハ陸軍ヨリモ人材ヲ得テ熱心ニ研究所ノタメニ努力セラレタノデアツタガ、此ノ運命ニ就テハ將來如何ニナリ行クベキカト人皆懸念シテキタノデアアル。幸ニ今日ノ隆盛ヲ見ルヤウニナツタコトハ慶賀ニ堪エナイ。青山氏在世ナラバ如何バカリ悦バレルデアラウ。

銅像除幕ニ際シ一言往事ヲ追懷シテ祝辭トスル。(長與先生原稿)

以上ガ山川サンノ挨拶デアツタ。實際移管ニ就テハ青山先生ヲ中心トシ、林サン、私等ガ先ヅ決心シ、山川サンモ決心セラレテ實行サレタノデアアル。山川先生ガアノ時、アノ場所デ何故アノ様ナ事ヲ云ハレタカトイフト、山川先生ハ間モ無ク辭メルツモリデキラレ、本當ノコトヲ述ベテ置クツモリデアツタモノト思ハレル。モーツハ青山先生ノ冤ヲ雪グツモリデ言ハレタモノト思フ。

私モ此處デ之ヲ述ベテ置クノハ同ジ意味デアリ、又内輪ノ催シデアアルカラー向差支ナイモノト思フ。

次ニソノ時私ハ次ノ様ニ挨拶ヲシタ。

私ハ所員及同窓會員一同ヲ代表シテ一言御禮ト御挨拶トヲ申上マス。本日ハ青山男爵家ノ御贊同ヲ得テ、林建設委員長ヨリ故先生ノ銅像ヲ同窓會ニ御寄附ニナリマシタニ就テ、之ヲ本所内本館ノ前庭ニ安置シ、只今首尾ヨクソノ除幕式ヲ了ツタノデアリマスガ、私ハ男爵家ニ對シ、マタ建設委員ニ對シ、ソノ御好意ヲ謝スルト同時ニ、研究所及同窓會ノ名ニ於テ、此ノ銅像ヲ永久ニ大切ニ保管致スコトハ我々ノ大ナル光榮デアルトイフコトヲ先ヅ申上ゲテ置キマス。

此銅像ハ、20 數年前先生ガ生死ノ間ニ彷徨シ、全精力ヲ傾ケテ成サレマシタ香港ニ於ケル「ベスト」御研究ヲ紀念スルタメニ製作セラレタノデアリマスカラ、之ヲ傳染病研究所ニ於ケル先生ノ記念ト致シマスコトハ、誠ニソノ所ヲ得タモノデアルト考ヘマス。然シ乍ラ、我々ハ之ヲ我々ノ最モ尊敬シ、且追慕シテ止マナイ恩師ノ單ナル記念トシテ仰ギ見ルニ止メタクハナイノデアリマス。今少シ深イ意義ヲ此ノ記念像ノ裡ニ見出サントスルモノデアリマス。

先生ハ今日以後彼所ニ在ツテ其鋭イ眼光ト、超凡ナ識見ヲ以テ我々一同ノ日々ノ行動ヲ見守ツテ居ラレルノデアリマス。研究所ノ發展、事業成績ノ擧ランコトヲ熱望シテ居ラレルノデアリマス。

今私ハ先生ガ逝去ノ2,3ヶ月前ニ、本館ニ御見エニナツタ時ノコトヲ憶ヒ起シマス。ソレハ私ガ研究所ニ於テ先生ニ御目ニカ、ツタ最後デアリマスガ、先生ハ所内各室ヲ巡視セラレテ、私共ノ研究室ニモ來ラレ、恙蟲病ニ關スル顯微鏡標本ヲ御覽ニナリ、イロイロ意見ヲ述ベラレタ後、室ヲ出テ階段ヲ降ラル、際ニ「欄干ニ頼ラナケレバ目ガフラフラシテナラナイ」ト云ハレマシタ。ソノ著シク憔悴セ

ラレタ後口姿ヲ御見送りシテ、私ハ實ニ悲愴ノ感ニ打タレタノデアリマシタ。ソノ當時ノ有様ハ今日尙アリ。アリト私ノ眼底ニ残ツテ居リマス。勿論先生ハ御自身ソノ御持病ノ何モノタルカヲ能ク自覺シテ居ラレタノデアリマシテ、恐ラク先生ハ最後ノ研究所視察ノ積リテ痛味ヲ押シテ來ラレタコト、推察スルノデアリマス。先生ガ研究所ノ將來ヲ深く氣ニカケラレ、ソノ發展ヲ切望シテ居ラレタコトハ此ノ一事デヨク分ルト思ヒマス。

我々ハ生ケル先生ニ對スルト同様ノ氣分ヲ以テ此ノ胸像ニ對シ、正シイ主義ノ下ニ、高キ理想ヲ掲ゲ、眞劍ヲ努力ヲ以テ只一遍ニ前進スルノミデアリマス。所員一同ガ斯ル心持ヲ有ツコトニ依ツテ此ノ胸像ヲシテ意義深キモノトスルコトガ我々ノ責務デアルコトヲ信ジマス。

所員及會員ヲ代表シテ謹ンデ銅像ノ御引渡シヲ受ケ、併セテ所感ヲ申上ゲル次第デアリマス。(長與先生原稿)

ソノ後25年モタツタ。傳研モダンドン良クナリ、林・長與・宮川トイフ様ニ所長ニナツタガ、勿論上ニ立ツ者バカリノ力デハナク、全所員ノ努力ニヨツテ斯クナツタト思フ。他ノ所ニヨクアル様ヲ不愉快ナコトモ此處ニハ無ク、全員ガ一體トナツテ、研究第一、正シイ主義ノモトニ今日マデ續ケラレタコトガ今日アルモトダト思フ。

又今事變ニ對シテモ傳研ガ力ヲ擧ゲテ國ノ爲メニ十分働イテキルコトモ喜バシイコトデアル。

實ニ傳研ハ青山先生ノ御陰デ斯クナツタノデアルガ、又北里先生ガ無クテモ傳研ハ出來ナカツタカモ知レナイ。此ノ御二人ハ傳研ノ恩人デアル。

斯ル機會ニ思ヒヲ新ニシ、所長ト全所員トガ一體トナツテ學問ノタメニ益々努力シテホシイト思フ。

青山徹藏博士ノ謝辭要旨

今日ハ胸像ノ遷座式ニ私共御招待ヲ受ケ、有難ク御禮申上マス。

先程ヨリ宮川所長ヤ林・長與兩先生カラ色々ト御話ヲ承リ感激シテキマス。

私事ヲ申シテ恐縮デスガ、像ノ本人ハ家庭ヲ持ツテカラ4度轉宅シテキマス。始メ小石川ノ竹島町ニキマシタ。之ハ大キイ家ダツタト養母ガ時々申シテキマシタ。次ニ麴町ノ富士見町ニ移リ、ソノ次ニ水道橋近クノ裏猿樂町ニ引越シ、此ノ時代ニ「ペスト」ノ香港行キヲヤリマシタ。又此ノ家デハ原田熊雄氏等ト池ノ金魚ヲ釣ツテ鹽焼ニシテ食ツタナドトイフ話モ残ツテキマス。最後ニ明治32、3年頃今ノ本郷弓町ヘ落ツキマシタ。

此ノ像ハ猿樂町ニ居タ頃ニ頂イタモノデ、其處カラ弓町ヘ持ツテ行キ、後ニ傳研ニ、今マタ外カラ今度ノ所ヘ移サレテ、之モ丁度4回轉宅シタワケデアリマス。

コレカラ永ク皆様ト御一緒ニ居ラレルコトハ在天ノ靈モ喜ンデ居ルコト、在ジマス。

厚ク御禮ヲ申上マス。

報 雑

江崎・北村君凱旋

カネテ應召中ノ醫局ノ江崎唯男君、事務ノ北村眞通君ハ赫々タル武勳ヲタテ目出度凱旋サレ。夫々1月27日、2月7日ニ召集ヲ解除サレテ歸所サレタ。

學術集談會

去ル2月22日(木)午後1時カラ構堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレ。演題ハ次ノ様デアツタ。

1. 流行性腦炎「ウィールス」ノ分離ニ際スルー括移植法ト「ガラス」器内培養法
川喜田愛郎君
2. Embelin ノ構造及ビ合成
淺野三千三君
山口 一考君

人事異動報告

昭和15. 3. 5現在

發令月日	辭	令	官職	氏名
2. 22	依願解囑			朝比奈正二郎
2. 29	依願免本官	技手		大山 西一
2. 29	傳染病研究所業務ヲ囑託ス			大山 西一
2. 29	任傳染病研究所技手			田崎 忠勝
				給十級俸
2. 29	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク			田崎 忠勝

實驗醫學雜誌第二十四卷第一號 村江通之

正 誤 表			
頁	行	誤	正
37	7	依 ッ テ	做 ッ テ
37	9	Kohlensaure	Kohlensäure
38	30	Morgan (50)	Morgan (40)
41	第 2 表 菌 量	20	2.0
54	12	(PH 7.4)	(PH 7.6)
55	20	前 二 項	前 項
59	25	捧 ヲ	捧 ヲ

小島國康論文正誤表

諸種消毒劑ノ殺菌作用ノ理論及ビ實際(其ノ一、前半)

(實驗醫學雜誌第24卷第2號)

頁	行 目	誤	正
139	上ヨリ 15	各供試藥ノ10%溶液ヲ製シ	各供試藥ノ1.0%溶液ヲ製シ
141	上ヨリ 12	嚴密=5.0%石炭酸溶液ヲ調製セルコト。	嚴密=5.0%石炭酸溶液ヲ調製セリ。

雜 報

大澤・中村・稻葉三氏還曆退職

大澤榮氏(事務)、中村丑之助氏(附屬醫院)、
稻葉富治氏(事務)ノ三氏ハ此度目出度還曆ニ
達セラレ、停年制ニヨリ3月末ヲ以テ退職サ
レタ。

春秋會テハ3月28日午後所内食堂ニ於テ
三氏ニ對スル心カラノ送別會ヲ催シタ。

學術集談會

3月25日(月)午後1時ヨリ講堂ニ於テ下
記ノ通り學術集談會ガ催サレタ。

演 題

1. 箕田氏「パラチフス」XY菌ニ關ス
ル研究 { 入田 貞義君
 龜山 良一君
2. 「ズルフォソニアミド」劑ノ實驗的汎
發牛痘ニ對スル效果ニ就テ
 { 矢追 秀武君
 荒川 清二君
3. 「ズルフォソニアミド」劑ノ實驗的鼠
蹊淋巴肉芽腫症ニ對スル效果ニ就
テ { 矢追 秀武君
 荒川 清二君
4. 精製濃縮セル加熱(100°C, 30')葡
萄狀球菌毒素ノ免疫元性ニ就テ
(續報) { 林 阿安君
 細谷 省吾君
 柳澤 睦夫君
5. 綠膿菌免疫ニ關スル研究(第二報)
 { 細谷 省吾君
 林 阿安君

學友會へ寄附

- | | |
|-------------|--|
| 1金 36圓 16錢也 | 川 喜田 愛 郎君 |
| 1金 24圓 16錢也 | 桑 島 謙 夫君 |
| 1金 13圓 28錢也 | { 細 谷 省 吾君
林 阿 安君 |
| 1金 13圓 22錢也 | { 細 谷 省 吾君
林 阿 安君
松 兼 正 司君
柳 兼 澤 睦 夫君 |

- | | |
|-------------|-----------|
| 1金 12圓 69錢也 | 補 永 茂 夫君 |
| 1金 13圓 18錢也 | 中 村 敬 三君 |
| 1金 12圓 19錢也 | 續 木 正 大君 |
| 1金 18圓 15錢也 | 川 瀬 五 郎君 |
| 1金 37圓也 | 羽 里 彦左衛門君 |

人事異動報告

- | 發令
月日 | 辭 令 | 官職 | 氏 名 |
|----------|---------------------|----|---------------|
| 2. 29 | 依願免本官 | 技手 | 大竹 巖 |
| 2. 29 | 任傳染病研究所 | 技手 | 梶原 秀信
給十級俸 |
| 2. 29 | 傳染病研究所業務囑託ヲ解ク | | 梶原 秀信 |
| 3. 1 | 研究生入學計可 | | 寺 岡 辰 |
| 3. 6 | 朝鮮へ出張ヲ命ス | | 技手 佐藤 久藏 |
| 3. 11 | 研究生入學計可 | | 村田 恭造 |
| 3. 13 | 傳染病研究所業務囑託ス | | 太田 次作 |
| 3. 15 | 傳染病研究所業務囑託ス | | 林 春 雄 |
| 3. 15 | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ
解ク | | 補永 茂夫 |
| 3. 15 | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ
解ク | | 津田 恭介 |
| 3. 11 | 研究生退學許可 | | 天野 正章 |
| 3. 20 | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ
解ク | | 川 崎 治 |
| 3. 23 | 中華民國へ出張ヲ命ス | | 技手 川島 四郎 |
| 3. 31 | 傳染病研究所業務囑託ヲ解ク | | 高橋 秀雄 |
| 3. 31 | 同 上 | | 伴 彰 一 |
| 4. 1 | 研究生入學許可 | | 佐々木二郎 |
| 4. 1 | 研究生入學許可 | | 高田 昇造 |

報 雜

學術集談會

去ル4月18日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ次ノ様ナ演題テ學術集談會ガ催サレタ。

1. 赤血球沈降速度ト肺結核ノ經過
 { 羽田幸雄君
 川上立太郎君
 福井覺君
 重福太郎君
2. 固有宿主、非固有宿主臟器乳劑ニテ處置セル犬十二指腸蟲仔蟲ヲ非固有宿主ニ投與セシ時ノ發育狀態ニ就テ
 金子禮治君
3. 犬ノ各種臟器乳劑ヲ以テ處置セル犬十二指腸蟲完熟仔蟲ヲ白鼠ニ經口感染セル際ノ體內移行狀況
 長谷部一郎君
4. 好氣的細菌培養液ニ浸セル不反應電極ノ電位變化ニ就テ
 福見秀雄君
5. 1例ノリブシュツ氏急性陰門潰瘍ニ見出サレタル細菌叢ニ就テ
 { 二神由紀彦君
 林阿安君
6. 瓦斯環疽豫防ニ關スル實驗的研究(第5報)
 { 小田通男君
 須藤正君
 村田良介君
7. 「ツベルクリン」ノ有效成分ノ分離ニ就テ(第2報)
 桑島謙夫君
8. 「フェノール」類及芳香屬酸類ノ殺菌作用
 鉄木總吾君
9. BCG 接種後ノ「ツベルクリン」反應ノ消長ト BCG 接種者ニ於ケル肺結核發生
 岡西順二郎君

學友會へ寄附

1金29圓15錢也 村江通之君

人事異動報告

- | 發令月日 | 辭令 | 官職 | 氏名 |
|-------|-----------------|-------|---|
| 4. 13 | 研究生入學許可 | | 柴山威則 |
| 4. 15 | 依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク | 定員外囑託 | 奥富康雄 |
| 4. 15 | 傳染病研究所業務ヲ囑託ス | | 李開榜 |
| 4. 16 | 研究生入學許可 | | 笠原順一郎 |
| 4. 18 | 研究生入學許可 | | 宮村守人 |
| 4. 15 | 傳染病研究所業務ヲ囑託ス | | 田澤博隆
佐々學
古屋曉一
澤井芳男
甲野禮作
中島精
曾良忠雄
入田博英
石若大三
藤田三夫
吉野貴正
廣橋誠之
田沼息正
宮川逸郎
篠原進
井上健
後藤瀨平
土谷忠 |
| 4. 15 | 傳染病研究所業務ヲ囑託ス | (定員外) | 岡田久
多川弘一郎 |
| 4. 23 | 依願免本官 | 技手 | 小川政敏 |

雜 報

學術集談會

去ル5月23日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ、學術集談會ガ催サレ、演題ハ次ノ様デアツタ。

1. *Leptospira canicola* ノ我ガ邦ニ存在スルコト 北岡正見君
2. 瓦斯瘰癧豫防治療用血清ノ製造ニ就テ

	{	細谷省吾君
	{	小田通男君
	{	飯高孔君
3. 6代ニ互ル人癩家鶏接種試験

	{	太田正雄君
	{	日戸修一君
4. 人癩接種家鶏材料ヲ抗原トスル林・光田氏反應

	{	太田正雄君
	{	日戸修一君
5. 牛肺疫ノ病理發生ト防遏策ニ就テ(綜説) 山極三郎君

傳染病研究所紀念日

6月1日ノ興亞奉公日ハ恰モ本所創立四十二周紀念日ニ當リ、奉公日ノ朝禮ヲ兼ネテ午前11時ヨリ講堂ニ於テ式ガ行ハレタ。

學友會〜寄附

1金12圓84錢也 神子謙君

人事異動報告

昭和15.6.3 現在

發令月日	辭令	官職	氏名
4. 30	依願免本官	技手	神子謙
4. 30	依願免本官	同	高木直二郎
5. 13	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		古屋 曉一 八田 博英 石若 大三 田沼 息正 宮川 逸郎 篠原 進
5. 20	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		田澤 博隆 佐々 學

雜 報

學術集談會

6月20日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ下記ノ通り學術集談會ガ開催サレタ。

1. 精製痘苗ト赤痢わくちんノ混合免疫ニ就テ
山田 貢君
2. 球菌類ニ對スル Sulfanilamid 類ノ作用機轉ニ關スル研究(第一報)
矢部 正澄君

學友會へ寄附

1金 53圓 88錢也	高木直二郎君
„ 17圓 04錢也	入田善保君
„ 45圓 20錢也	補永茂夫君
„ 4圓 93錢也	桑島謙夫君
„ 3圓 80錢也	林阿安君
„ 3圓 81錢也	二神由紀彦君
„ 28圓 44錢也	後藤敏夫君
„ 19圓 90錢也	五十嵐正治君
„ 25圓 53錢也	新井三九雄君
„ 70圓 62錢也	小島國康君
„ 43圓 56錢也	川喜田愛郎君

人事異動報告

昭和15. 7. 8 現在

發令 月日	辭令	官職	氏名
5. 31	依願免本官	技手	矢部 正澄
5. 31	依願免本官	同	岩崎 龍郎
6. 1	研究生入學許可		藤井 勇
6. 3	研究生入學許可		村尾 基
6. 5	研究生入學許可		石井 正文
6. 10	依願免本官	技手	小田 通男
6. 11	依願免兼官	兼任技手	栢内 寛
6. 19	依願免本官	技手	廣濟 法圓
6. 20	研究生退學許可		安藤 誠治
6. 22	依願免本官	技手	金子 讓
6. 30	研究生退學許可		安田忠次郎
6. 30	任傳染病研究所技手、給十級俸	醫學部 第七位	金光 正次
6. 30	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		金光 正次
6. 30	任傳染病研究所技手	東大 助手	草野 信男
7. 1	陞敘高等官二等	教授	細谷 省吾
7. 1	研究生入學許可		吉澤 功

實驗醫學雜誌

(傳染病研究所研究業績報告)

第二十四卷 第八號 昭和十五年八月二十日發行

原 著

痘苗ノ製造ニ關スル研究 殊ニ粗苗ノ作製ニ就テ

(昭和15年6月25日受付)

大阪帝國大學微生物病研究所細菌血清學部(部長 谷口教授)

池 田 武 夫

目 次

- | | |
|------------|----------|
| I. 緒 言 | 1. 春季ノ成績 |
| II. 實驗方法 | 2. 夏季ノ成績 |
| 1. 粗苗ノ作製方法 | 3. 秋季ノ成績 |
| 2. 發痘力試驗術式 | 4. 冬季ノ成績 |
| 3. 雜菌試驗 | IV. 總 括 |
| III. 實驗成績 | V. 結 論 |

I. 緒 言

痘苗製造所ガ優秀ナル痘苗ヲ供給スルコトハ、痘瘡ノ防疫上重要項目タリ。サレバ各製造所ニ於テハ、優良痘苗ノ作製供給ニツキ常ニ研究ヲ重ネツ、アリ。

然而牛ヲ以テ粗苗ヲ作製スルニ當リ、使用牛ノ各種條件ヲ異ニスルニ從ヒ、操作及ヒ採收量ヲ異ニスルハ自明ニシテ、各研究家モ此ノ點ニ着目シテ、研究ヲ進メ各自優秀ナリト確信スル方法ヲ提唱セリ。本邦ニ於テ各製苗所ハ一般ニ犢牛ヲ使用シ、傳染病研究所ハ時ニ生後1—2年經過セル體重50貫内外ノ成牛ヲ用フ、大連滿鐵衛生研究所ニ於テハ體重47—50貫内外ノ牛ヲ使用スト言フ(同所笠井博士談)、Blaxall⁽¹⁾ハ130疋内外ノ犢牛、Gins⁽²⁾ハ生後4—6週間經過セル70—90疋ノ犢牛、Kolle u.

報 雜

應 召 職 員 (八月一日現在)

氏 名	派 遣 先	留 守 宅
中 神 清 一	滿洲國北安省嫩江。野口(七)部隊本部	愛知縣豐橋市中八町 中神清太郎方
中 村 敬 司	中支派遣山脇部隊。谷崎部隊	愛知縣豐橋市萱町 中村茂治方
金 澤 謙 一	高崎陸軍病院	茨城縣日立鑛山諏訪台 金澤易次郎方
中 野 豐 策	中支那派遣軍田中部隊。吉田部隊本部	東京市芝區白金三光町 259 中野靜枝方
米 倉 秀 雄	中支派遣山田部隊。石井(四)部隊本部	鹿兒島縣鹿兒島郡伊敷村比志島 4178 米倉武雄方
鈴 木 勝 治	北支派遣多田部隊。齋田部隊本部	東京市世田谷區大原町 1270 鈴木三郎左衛門方
寺 山 廣 喜	滿洲ハイラル大西部隊本部	大分縣直入郡柏原村 4543 寺山勝馬方
北 川 安 信	宇品船舶輸送軍醫部	東京市淺草區芝崎町 2ノ9ノ5 北川禮子方
輕 部 彌 生 一	中支派遣熊谷部隊。大竹部隊。神田 部隊	東京市大森區馬込町東 4ノ268 輕部修伯方
森 藤 靖 夫	南支派遣安藤部隊。上山部隊本部	兵庫縣神崎郡福崎町驛前 森藤こま方
増 山 忠 俊	廣島陸軍病院江波分院	川崎市戸手町 2ノ28 増山小房方
柳 井 時 正	北支派遣飯沼部隊安東部隊	岡山縣淺口郡阿知町大字片島 862 柳井源三郎方
後 藤 敏 夫	名古屋陸軍病院東練兵場臨時分院	濱松市追分町 141 後藤一雄方
朝 倉 貫 一	廣島陸軍病院本院病理試驗室	廣島市上流川町 44ノ2 朝倉絹枝方
齋 藤 弘	南支派遣軍池田賢部隊谷原隊本部	栃木縣鹽谷郡喜連川町大字喜連 川 266 齋藤福太郎方
森 成 禎 二	中支派遣甘粕部隊。北村部隊	新潟縣高田市本町 2丁目 森成麟造方
五 十 嵐 正 治	山梨縣甲府陸軍病院衛生部	東京市豐島區長崎町 4丁目37ノ 1 五十嵐しづ子方
栗 林 久 之 輔	中支派遣軍山田茂部隊。櫻井隊 小行李	新潟縣南蒲原郡中之島村大字中 條甲 1289 栗林庄治方
松 兼 正 司	廣島第十一聯隊第二中隊第二班	東京市板橋區石神井立野町 906 松兼正司方
菅 原 芝 郎	弘前陸軍病院	東京市杉並區大宮町 1605
吉 澤 功	仙臺陸軍病院	東京市中野區小澁町 28 矢田方

學友會へ寄附

1金 14圓 88錢也
" 19圓 93錢也

川 瀨 五 郎 君
安 倍 胤 一 君

1金 21圓 19錢也
" 17圓 13錢也
" 4圓 62錢也

{ 八 田 貞 義 君
龜 山 良 一 君
高 木 直 二 郎 君
丸 山 幸 太 郎 君

人事異動報告

昭和 15. 8. 8 現在

發令月日	辭令	官職	氏名		
4. 1	委託研究生入學許可	(滿洲國馬疫研究所派遣)	末兼 敏男	7. 15	研究生入學許可 古橋 仁
5. 1	委託研究生入學許可	(滿鐵派遣)	森 勇雄	7. 15	研究生入學許可 小島 光
7. 5	任傳染病研究所技手給十級俸		新井三九雄	7. 15	研究生入學許可 花岡 久
7. 5	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		新井三九雄	7. 15	敘正五位 教授 細谷 重夫
7. 5	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當一ヶ月金五拾圓給與		宮崎正之助	7. 16	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク 岡田 久
7. 5	解雇		宮崎正之助	7. 23	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當一ヶ月金五拾五圓給與 清水 重夫
7. 5	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		飯高 孔	7. 23	解雇 清水 重夫
7. 5	研究生退學ヲ命ス		飯高 孔	7. 31	傳染病研究所業務ヲ囑託ス 岡本 啓
				7. 31	研究生退學ヲ命ス(雇採用ノ爲) 久保田 久
				8. 1	研究生滿期退學(應召中) 岡田 重
				8. 1	任陸軍軍醫中尉 技手 北川 安信

八田・龜山論文正誤表

「パラチフス」X菌及ビY菌(箕田氏)ノ細菌血清學的研究
(實驗醫學雜誌第 24 卷第 5・6 號)

頁	行 目	誤	正
642	下ヨリ 13	20°C 培養菌ニヨル	22°C 培養菌ニヨル
644	下ヨリ 2	V. R	V.-P
833	下ヨリ 3	催ケ	設ケ

實驗醫學雜誌第 24 卷第 7 號			
田中ニクさりへび毒ニ就テ 正誤表			
頁	行	誤	正
947	上 3	血球凝集作用ハ熱レノ	血球凝集作用ハ執レノ
"	上 6	熱ニ對スル對度	熱ニ對スル態度
"	上 10	如何ナル對度	如何ナル態度
948	(第11表)	くさりへび毒ノ	加熱セルくさりへび毒ノ
949	下 3	russelli	russellii

雑報

金澤君召集解除

カネテ應召中デアツタ金澤謙一君ハ赫々ノ武動ヲタテラレ、8月15日日出度召集解除トナツテ歸所サレタ。

學友會へ寄贈

1 金 53 圓 02 錢也	小田 通男君	他 6 名
.. 13 圓 90 錢也	福見 秀雄君	
.. 11 圓 95 錢也	細谷 省吾君	

人事異動報告

昭和 15. 9. 9 現在

發令月日	辭令	官職	氏名
7. 31	任	傳染病研究所技手	羽田 幸雄 福井 覺 重福 太郎
7. 31		傳染病研究所業務囑託ヲ解ク	

羽田 幸雄
福井 覺
重福 太郎

8. 8 在留期間ヲ昭和 16 年 1 月 31 日迄延期ス (文部省在外研 究員(所員)) 石井信太郎

8. 21 依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク 入田 善保

8. 31 朝鮮へ出張ヲ命ズ(京城へ)教授 田宮 猛雄

第 12 回日本聯合衛生學會出席ノ爲

8. 31 傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當 1 ヶ月金 60 圓給與 關口 安男

9. 1 研究生滿期退學 井上 喜市

9. 5 研究生入學許可 稻富 瑞穂

雜

報

學術集談會

去ル8月19日(木)午後1時カラ講堂ニ於テ學術集談會ガ開催サレ。演題ハ次ノ様デアツタ。

1. Sulfanilamideノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テ
須賀井忠雄君
大林 容二君
野上 鐵雄君
2. 昭和15年廣島ニ移入サレタ「コレラ」及ビ上海流行ノ「コレラ」カラ分離サレタ菌株ニ就テ
小栗 一好君
後藤 瀨平君
芦田 光三君
久津見 專君
3. 髓骨芽細胞白血病 (Paramyeloblastenleukämie)ノ二例檢例ニツイテ
渡邊 漸君
4. 「シマタイミンチバナ」ノ驅蟲性成分「ラバノン」ノ構造竝ニ合成 (「オキシ

ピノン」類ノ研究 第3報)

淺野三千三君

山口 一孝君

5. 「アルキルデオキシピノン」類ノ合成別法 (「オキシピノン」類ノ研究 第4報)

淺野三千三君

長谷 純一君

6. 「ブルフェニールアミド」及ビソノ類似化合物ノ作用機轉ニ就テ(綜説)

長谷川秀治君

學友會へ寄附

- | | |
|-----------|--------|
| 1金15圓67錢也 | 羽田 正一君 |
| 1金5圓95錢也 | 池田 武夫君 |
| 1金50圓74錢也 | 矢追 秀武君 |

人事異動報告

(昭和15. 10. 2現在)

發令 月日	辭 令	官職	氏名
9. 1	研究生入學許可		唐司 藏人
9. 25	依願傳染病研究所 業務囑託ヲ解ク		後藤 漸平

雜 報

矢部君應召ス

矢部正澄君ハ去ル10月2日名譽ノ召集ヲ受ケ勇躍應召サレタ。

學術集談會

去ル10月24日(木)午後1時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ。演題ハ次ノ通りテアツタ。

1. Ferret ノ Salmonellose

(イ)鼠「チフス」菌ト「ゲルトネル」菌トノ混合感染ニヨル Ferret ノ Salmonellose
(ロ)鼠「チフス」菌ノ菌型ト流行病學的意義ノ説述 八 田 貞 義 君

2. 精製葡萄狀球菌「トキソイド」。加熱濃縮毒素ノ外科臨牀的應用

鹽 田 時 夫 君

3. 細菌性疾患ノ免疫療法ニ關スル私共ノ基礎的研究 細 谷 省 吾 君

學友會へ寄附

1金 28圓 73錢

清 水 文 彦 君

1金 30圓 64錢

石 井 確 君

1金 300圓 83錢

千 明 三 郎 君

1金 29圓 14錢

韓 沁 錫 君

1金 24圓 84錢

田 中 哲 之 助 君

人事異動報告

昭和 15. 11. 5 現在

發令	辭 令	官職	氏 名
9. 15	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		甲野 禮作
9. 30	研究生滿期退學		瀧澤 道夫
10. 1	研究生入學許可		間山 哲男
10. 1	依願免本官	技手	入田 貞義
10. 1	委託研究生入學		
		文部省派遣	荷見秋次郎
10. 25	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		吉野 貴正
10. 25	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク	學振研究費支辨	多川弘一郎
10. 31	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク	學振研究費支辨	片倉 仁子

雑 報

傳染病研究所長就任挨拶

三田村 篤志郎

今回計ラズモ宮川前所長ノ後任トシテ、不肖私ガ傳染病研究所長ノ職ヲ拜命致シマシタ。

ツイテハ茲ニ諸君ノ御參集ヲ仰ギ就任ノ御挨拶ヲ申上ゲタイト存ジマス。

先ヅ宮川前所長ニ對シ申上ケ度イト存ジマス。宮川前所長ハ昭和9年2月1日所長ノ職ニ就カレマシテ、爾來6年有餘、更ニ長與前所長ノ病氣御靜養中コレヲ輔佐サレマシタ昭和5年カラ數ヘマスト約10年間、銳意研究所ノ運営ノタメニ御盡瘁ニナリ、ソノ御在任中ニ我が傳染病研究所ガ目覺マシキ發展ヲ遂ゲマシテ、以テ國ノ内外ニ益々重キヲ加ヘマシタ事ハ諸君ノ御承知ノ通りデアリマス。

コノ間ニ於ケル宮川前所長ノ功績ノ大ナル事ハ今更私ガ申スマデモナイ事デアリマシテ、コノ機會ニ所員一同ヲ代表致シマシテ、私ヨリ宮川前所長ニ深甚ナル賞讃ト衷心ヨリノ感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

サテ今回不肖私不敏不徳ノ身ヲ以テ所長ノ大任ヲ受ケマシテ衷心恐懼ノ念ニ堪エナイ次第デアリマス。タゞ諸君ノ御後援ニヨリマシテ大過ナクコノ重責ヲ果タシタイト念願致シテ居リマス。

茲ニ私ハ所長トシテ今後公平無私、諸君即チ我が傳染病研究所ノ公僕トシテ、私ノ最上ヲ盡シマス事ヲ嚴カニ宣誓致シマス。

ツキマシテハ諸君ニ於カレテモ何卒同様ノ精神ヲ以テ御協力下サルヤウ切ニオ願ヒ致シマス。

コノ機會ヲ利用致シマシテ私ハ我が傳染病研究所ノ指導方針ニ關シマシテ私ノ所懐ノ一ニヲ申上ゲタイト存ジマス。コレハ今更事新

シク申スマデモナク「徳ヲ磨キ、學ヲ勵ム」ノ一語ニ盡キルト存ジマス。我が傳染病研究所六百ノ各位ガ、夫々已レヲ持スル事高ク、各々ソノ長所ト創意ヲ發揮シテ止マナイ事ハ何ヨリモ望マシイ事デアリマスガ、コレト同時ニ各人ガ、傳染病研究所ヲ愛シ、學ヲ樂シミ、公ニ奉仕スル高キ理想ニ於テ、已レヲ棄テ、一心トナル事ハ更ニ一層緊急ナ事ト存ジマス。

畏クモ

明治天皇ノ御製ニ

人も我も 道を守りて かはらずば
我が敷島の 國は動かじ
おのづから 仇のこゝろも 靡くまで
誠の道を ふめや國民
國といふ くにかゞみと なるばかり
みがけますらを 大和だましひ

ト御座キマス。

願ハクバ、我々モ理想ヲ一ニシ、志ヲ同ジウシテ、天下ノ正道ヲ歩ミタイト存ジマス。

長與、宮川兩所長ハ、我が傳染病研究所ノ指導理念トシテ、一ニモニモ三ニモ研究ナル標語ヲ常ニ高唱サレタノデアリマスガ、私モソノ精神ヲ堅ク遵奉致スモノデアリマス。私ハ敢エテ一ニモニモ三ニモトハ申シマセンガ、一ニ研究ナル言葉ヲ名實共ニ徹底サセタイト存ズルノデアリマス。諸君ニ於カレテモ、今後益々研究ニ精進サレ、我が傳染病研究所ノ學問的名譽ヲ高揚サレマスヤウ熱望致シマス。

言フマデモナク研究ノ價值ハ、ソレガ眞理ヲ闡明スル點ニ在リ、研究ノ内容ハ、ソノ大小ヲ問ハズ、質的ニヨイモノデアリ、且ツ眞ナルモノデアル事ヲ要シマス。勿論我々ノ研究ガ同時ニ社會ヲ益スルモノデアル事ハ何ヨ

リモ望マシイノデアリマスガ。シカシ。我々ノ研究ガ世ノ歡呼喝采ヲ受ケルカ否カハニ義的ノ問題デアリマシテ。永久性。眞實性ノミガ研究ニ眞ノ價值ヲ與ヘルモノト信ズルノデアリマス。

今日ハ以上ノ大綱ヲ述ベマシテ私ノ御挨拶ヲ終リタイト思ヒマス。

最後ニ。我が傳染病研究所ガ。ソノ學ト徳トヲ益々内ニ充タシ。シカル後ニコレヲ愈々外ニ發スルコトニヨリ。今後彌ガ上ニモ發展ヲ續ケ。以テ皇運ヲ無窮ニ扶翼シ奉ツルト共ニ。世界ノ學界ニ寄與スル處大ナラン事ヲ希望シテ止ミマセン。

中村。米倉兩君召集解除

豫テ應召中デアツテ醫局ノ中村敬司君竝ニ米倉秀雄君ハ。何レモ赫々タル武動ヲ立テ、凱旋サレ。去ル10月31日及ビ11月4日ニ夫夫目出度ク召集解除トナツテ歸所サレタ。

學術集談會

去ル11月21日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ。演題ハ次ノ通りデアツタ。

1. 發熱時ニ於ケル血液「リポイド」量ノ消長ニ就テ 西下止 夫君
2. 醫學上ニ於ケル「コルヒチン」ノ意義 第二報 「コルヒチン」ノ原蟲類ニ對スル影響(附。「トリコモナス」ノ固形培養ニ就テ) 中村敬 三君 蓑茂 上君
3. 醫學上ニ於ケル「コルヒチン」ノ意義 第三報 「コルヒチン」ノ培養組織ニ對スル影響

{ 中村敬 三君
蓑茂 上君
野中 薰君

4. 絲狀菌 *Penicillium spiculisporum* Lehman ノ代謝産物「スピクリスホル」酸ノ構造ニ就テ

{ 淺野三千 三君
龜田幸雄 君

5. 結核菌ノ色素「フチオコール」ノ合成別法(「オキシヒノン」類ノ研究 第5報)

{ 淺野三千 三君
長谷純 一君

6. 實驗的家兎結核ノ特殊異種細菌「アウトリザート」ニヨル治療成績(實驗的方面)

{ 額田知惠 晉君
龍尾初枝 子君

7. 實驗的家兎結核ノ特殊異種細菌「アウトリザート」ニヨル治療成績

{ 木村哲 二君
大場勝 利君
飯淵かほ る君

學友會へ寄附

- 一金 24圓 74錢也 入田善保君
一金 53圓 98錢也 { 太田正雄君
日 戸 修 一君

人事異動報告

昭和 15. 12. 2 現在

- | 發令月日 | 辭 令 | 官職 | 氏 名 |
|--------|--------------|------------|--------|
| 11. 18 | 依願免本官 | 技手 | 岡西順二郎 |
| 11. 20 | 補傳染病研究所長 | 教授 | 三田村篤志郎 |
| | | 傳染病研究所長職務俸 | |
| | | 金八百拾圓下賜 | |
| 11. 20 | 依願傳染病研究所長ヲ免ス | 教授 | 宮川 米次 |
| 12. 2 | 研究生入學許可 | | 馬場 達人 |